



## マイ バッグ

ツォン フィン タン フォン  
TRUONG HUYNH THANH PHUONG

私は日本で色々なことをなりました。とくに環境問題と言うことでした。なぜ「マイバッグ」というテーマにするかをこれから説明したいと思います。

初めて日本に来た時は春でした。バスの窓から外を見たら、八時間ずっと飛行機に座っていて疲れたことを忘れてしまいました。桜は満開で、遠い山の頂きにまだ真っ白な雪が残っていました。見たことがないような、本当に美しい景色でした。

最初の日、東京の近くの栃木県の日本語の学校で三週間勉強しました。そこで若くて可愛い女の先生から「何より大切なことはゴミを分別することだ」ということを教えてもらいました。私はびっくりしました。「どうしてゴミを分別しなければならないか?」とか「もう使わない物は全部ゴミではないの?」とか、たくさん疑問が出てきました。先生は「日本は資源が少なく、天災が多い国です。もしゴミを分別しないと、まもなく資源がなくなって、外国から輸入しなければならないかもしれない。そうすると、日本の経済はこんなに発展できないはずだ」と言いました。それから、ゴミの分別を細かく説明してくれました。

三週間があつという間に終わり、北陸ハーネスの会社に入って、またいろんな分別方法があることがわかりました。田鶴浜工場の食堂にゴミ箱が九こあまり置いてありました。燃えるゴミ

の箱はたった1つで、ほかは皆りサイクルのためでした。カップラーメンを食べたら、きれいに洗ってサイズに合うように置くことなど本当に厳しいことがわかりました。私は正しくゴミを分別ができるかどうか心配になってきました。

ある日、仕事が終わってから、班長さんは私達一人ずつにショッピングバッグを渡してくれました。「なんのためですか。」と聞いたら「これから、スーパーに行ったら、袋の代わりにこれを使って下さい。そうすると一枚でも袋が節約できるね」といいました。

それまで、アパートの近くのスーパーに買物に行った時、店員さんにいつも「バッグをお持ちでしょうか」と聞かれて、いつも「いいえ」と答えていました。班長さんのお話を聞き、目の前のバッグを見ながら「明日から買物する時、必ず持って使おう、『バッグをお持ちでしょうか』と聞かれたら『はい』と自慢して答えよう。店員さん嬉しい顔で『はい、かしこまりました』と言うかもしれない」と思いました。「日本の国は美しい景色を見せてくれてありがとう。日本人は色々ないいことを教えてくれてありがとう。小さなバッグだけど節約を教えてくれてありがとう。ベトナムへ帰る時、あなたを持って帰らないかもしれないけれど、いつでもあなたのことを思い出しますよ。」